

知的障害のある高等部生徒のコミュニケーション能力を育成する自立活動の指導

—自ら意思を表出し人と関わろうとする力を高めるための支援の工夫を通して—

特別研修員 特別支援教育 市川久恵（特別支援学校教諭）

＜生徒の実態＞

- ・意思を表出することはできるが相手に伝わらないことがある
- ・特定の人には自分から関わることができる
- ・教師の言葉かけや提案を受け入れて行動しようとするすることができる



いろいろな人と関わりたいけれど、うまくいかなあ…

＜背景＞

- ・誰にでも分かるような意思の表現方法が身に付いていない
- ・友達とのやり取りが成功した経験が少ない
- ・支援や指示を受けながらの生活になりやすい

＜周囲の人の関わり＞

- ・意思を読み取って判断し、先に支援をしてしまいがち



＜目指す生徒像＞

自ら考え判断し、自分なりの方法で主体的に意思を表出し、人と関わることができる生徒



成功体験が増えて、意欲、自信、自立心が高まった！

授業実践（自立活動の指導）

題材名 クラスの友達と的あてをしよう

手立て1 自ら思考したり判断したりして、人や物に働きかけることができる環境設定

「よさ」を生かした役割活動の設定

好きなことや得意なことに着目して役割を分担し、友達と関わる機会を作る。



自信を持って役割を果たせる

安心できる活動場所

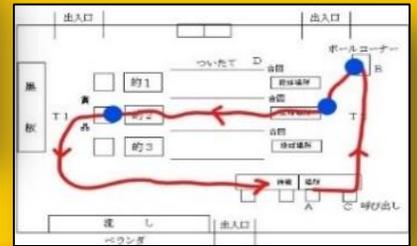
各自が好んでいる教室内の場所が役割活動の場となるようにし、かつ、全員が互いの動きを見渡せる向きにする。

いつもの場所なら安心だし、皆の活動も見える



「考えて動ける」動線の工夫

活動の区切りで選択場面（下図 ●）を設け、生徒が三つの選択肢から選んで次の活動に進み、室内を周回する動線を整える。



肩に触れて呼びかけができるCさん。呼びかけて帽子を被せ、順番を伝える役割を行う。

ボール遊びコーナーは、ボールを渡す役割を担うBさんが好きな教室の後方に設定する。

手立て2 確実に伝わる表現方法の活用

持っている力を生かした表現方法

言葉や身振りだけでなく、物の操作を組み合わせてお互いに分かりやすくする。



大きな声を出すのは苦手…

「よーい、どん」の言葉に、旗を掲げる動作を組み合わせる。

手立て3 教師の関わり方の工夫

相手への関わりを確認できる称賛

友達と関わることでできた理由を伝えて称賛する。



やった！できたぞ！

帽子を被せて順番を伝えたから、友達がボールを選びに行けたんですね。

友達の様子に気付ける言葉かけ

友達の様子に目を向け、関心を持てる言葉をかける。



ボールを選びに来たんだ！僕が渡すぞ！

成果

- 生徒の「よさ」に着目して役割を分担したことで活動に意欲的になり、役割を果たす中で友達と関わることでできた。また、安心できる活動場所や自分で考えて動ける動線を工夫したことで、自らすることを考え判断して活動できるようになった。
- 持っている力を生かした表現方法を活用したことで、確実にやり取りが成立し、自ら意思を表出することが増えた。
- 友達が活動できた理由を伝えて称賛したことで、自分の伝えたいことが伝わったという成功体験を得て、意欲が増した。
- 「〇さんが待っていますよ」「〇さんは何をしていますか」等、友達に関心を持てる言葉をかけたことで、友達の活動を意識し、それを手がかりにしたり、友達からの発信を受け入れたりして活動できるようになった。

課題

- 設定した選択場面に興味を示さない生徒がいた。選択場面や選択肢の数は個々の実態と必然性を十分に考慮する必要がある。
- 言葉による称賛だけでなく、自分でできたことを認めて自己評価できるように、まとめや振り返りの際にビデオ等の視覚的な教材を活用する工夫も必要である。